

このままでいいのか？

新しい淡路市をつくる

2020 12 月号

NO.8



戸田ゆうじ
議会報告

淡路市議会議員
戸田ゆうじ 後援会 発行

入札に関する疑問

裏面：多選による弊害

「新火葬場造成工事の件」

12 月定例議会に、議案として「**新火葬場造成工事請負変更契約締結の件**」が上程された。変更は**追加工事予算**である。

新火葬場は、市内各旧町時代からの火葬場が老朽化しているため、津名：野田尾地区に新しく 1 ヶ所に集約し建設するもの。

地域町内会などに同意を得(昨年 12 月)、土地買収を終え、現在、山間部の造成を進めている。

まず、今年 7 月 7 日に造成工事の入札が従来の紙入札ではなく、電子入札で実施された。

22 社の内 1 社辞退し、21 社入札の結果、19 社が全く同じ金額(1 億 4 千 994 万円：消費税別)で、直後、電子抽選で業者が決定されたとのこと。

- **なぜ、再入札を実施しなかったのか**
- **1 億円以上の工事の入札資格は業界 A ランク以上となっているが、B ランクを多く参加させている。**

これらは、8 月臨時議会・委員会でも多くの質問がなされたが、その回答は納得のいくものではなかった。

そして今回の追加予算…

議案説明の際、産業厚生常任委員会において、担当部より、この新火葬場造成工事については、「特段難しい工事ではない」と説明があった。

当然、設計にあたった会社も事前に造成についての調査をしているはずである。

にもかかわらず、今月議会で当初 1 億 6 千 493 万円(税込)であった工事が **4 千 556 万円追加され、2 億 1 千万円の工事契約**となり上程された。(2 億 1 千万円は、あくまで造成費用のみである)

あまりにも**莫大な金額が簡単に追加**されている。

- **戸田：大きな追加金額に疑問を持ち、反対**

先の開札結果、落札金額による業者との契約は何であったのか？いとも簡単に大きな追加予算が可決されるのは、何のための入札なのか？

これまでも高額入札は、工事業者と契約がなされた後で、**度々、追加予算が上乘せ**されている。

その都度、質問しても釈然とした答えが得られないのが現状である。
(裏面：開札結果表)

開札結果表					
入札に付した事項		淡生環第39号			
入札・開札の日時		淡路市新火葬場造成工事			
入札・開札の場所		防災あんしんセンター（電子入札）			
予定価格	最低制限価格	落札価格			
¥183,260,000-	¥164,934,000-	¥149,940,000-			
入札書比較価格	最低制限比較価格				
¥166,600,000-	¥149,940,000-				
番号	入札者氏名	入札保証金 又は担保 種別 金額	第1回 入札金額	再入札金額	備考
1	淡路土建(株)	免除	¥149,940,000-		
2	飯田建設(株)		¥149,940,000-		
3	株岩田建設		¥149,940,000-		
4	太田土建(株)		¥149,940,000-		
5	折田建設(株)		¥149,940,000-		
6	北淡路産業(株)		¥149,940,000-		
7	株芝床建設		¥149,940,000-		
8	株下土井		¥149,940,000-		
9	全淡建設(株)		¥149,940,000-		
10	株ツダ		¥149,940,000-		
11	津名土木(株)		¥149,940,000-		
12	常盤興業(株)		¥149,940,000-		
13	株長尾工業		¥149,940,000-		
14	株平松組		¥150,360,000		
15	株藤岡組		¥149,940,000		
16	南松本住宅設備		¥149,940,000		
17	株水谷建設		¥149,940,000		
18	向内造園(株)		¥149,940,000		
19	株森下建設		¥149,940,000		
20	株森長組		¥150,360,000		
21	株八嶋組		¥149,940,000		抽選
22	株生穂建設		不着		
契約予定額	¥164,934,000-	(うち消費税及び地方消費税)	¥14,994,000-		

履行場所 淡路市野田尾地内
工期（履行期間）契約日より令和3年3月25日

（淡路市 HP：制限付き一般競争入札 開札結果より）

多選による弊害

門市長は、議会で来年の市長選挙へ立候補を表明し、5期目への意欲を見せている。今年市政15周年を迎えたが、市が発足してから今日まで、**市民の皆さんが「住みよくなった」「希望がもてる」と感じる淡路市になっているだろうか？**

その間、県と淡路3市、パソナが一体となって国の地域活性化総合特区を申請し、指定を受けた。（平成23年12月）

いわゆる、「あわじ環境未来島構想」である。

特区指定は進出する企業にとって、さまざまな補助金や税の優遇措置などメリットがある一方、従来から淡路島の地元地域を守りながら生きている一般市民にとっては、地方創生の名のもと、地域を搾取されるような感覚を持つのは否めない。

今後、企業ありきの未来島構想ではなく、**市民が主役となる未来島構想にシフトしていくべきだと考える。**

今回、「入札についての疑問」を述べたが、長期政権の弊害は、首長の専制化・独裁化により行政組織が硬直化する可能性が高くなり、人事の停滞・職員の士気が低下。また、**癒着による腐敗も起きやすくなってしまふとの批判がある。**

鳥取県知事を務めた片山善博・早稲田大学教授も多選について、「**ひとつの権力が長くとどまると必ず弊害が生まれる。**意見や文句を言う人がいなくなると組織が萎縮し、議会のチェック機能も働きづらくなる」と指摘する。

門市長が求める議会とは、まさに承認機能のみのそのような議会ではないだろうか…

戸田ゆうじ

が考える「新しい淡路市」

新しい淡路市をつくろう！

- ・ 市民に寄り添い、挑戦する行政
- ・ 大胆で新たな発想のまちづくり

各地域で挨拶運動実施中・・・

将来の淡路市についてともに語ろう！

tel：080-8505-6448 戸田ゆうじ 後援会 までご連絡下さい